

グリーンニュース 第49号

発行年月日 平成 23年12月 25日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー



館林市の多々良沼・ガバ沼に秋になると毎年約100羽の白鳥が飛来します。県内では高崎市吉井町の鏑川や新町の烏川にも来るようです。数年前碓氷川にも数日間だけいたことがありました。鳥インフルエンザの影響で給餌などを制限するようになり今後の動向が注目されます

表紙

(写真・文 田中 和夫)

- P2 アドバイザー登録者数・環境政策課から
- P3 環境政策課から アドバイザー研修会を終えて・・・松村主任
- P4 想い、ご意見をご投稿下さい・・・・・・・・鈴木代表
- P5 自然環境部会報告・・・・・・・・浦野安孫
- P6 広報部会報告・・・・・・・・梅山さやか
- P7 温暖化・エネルギー部会・・小川仁司、ごみ部会・・中澤 章
- P8 地域トピックス、アラカルト他・・・・・・・・奈賀由香子

環境アドバイザー、323名登録（平成23年11月30日現在）

21年度4月より、第8期県環境アドバイザー登録者（登録期間：平成21年4月1日～平成24年3月31日）は、平成23年11月30日現在、323名の方の登録をいただいております。各地域で活躍されています。

本年度も引き続き、環境アドバイザー事業にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

県では随時、第8期の環境アドバイザーを募集しています。周りの方にもこの制度についてお話しいただき、環境活動に取り組んでいただける方々に紹介していただければ幸いです。

環境政策課より

環境森林フェスティバルに協力頂きありがとうございました

平成23年10月2日(日)に、前橋市亀里町の群馬産業技術センターにおいて、第13回ぐんま環境森林フェスティバルが開催されました。

今年も、環境アドバイザーのテント内で県民アクション(地球温暖化防止隊)の配付と、登録の記入を頂く来場者皆様へのご協力をしていただきありがとうございました。

参加して頂いた環境アドバイザーの協力の下、250名以上の登録を頂くことができました。



ご協力頂いた環境アドバイザー
(順不同)

(副代表) 彦部 雪夫、青木 純郎

(前橋地区) 福田 茂子、田村 幸生、

酒井 千富、林 英男、宮崎 亮二

(太田地区) 西村 豊、長谷川 直禧、

飯塚 紘一、飯塚 清苑、須永 徹、

久保田 文三

(藤岡地区) 辰身 武昭

(桐生地区) 周東 照二

(みどり地区) 赤石 雄平、鹿沼 薫

環境アドバイザー環境教育研修会を通して

環境政策課 松村 賢一

平成23年11月22日に、第1回環境アドバイザー環境教育研修会が開催されました。目的地は吾妻木質バイオマス発電所(株式会社吾妻バイオパワー:東吾妻町)と新利南発電所(群馬県企業局:沼田市)でした。幸い天気にも恵まれ、暖かさを感じながら研修会に臨むことができました。

午前の見学場所は吾妻木質バイオマス発電所(出力13,600kW)でした。この発電所は、木質チップの燃焼による発電を行っています。平成23年9月に営業運転を開始したばかりで、まだ新しい施設でした。従来は廃棄されてしまっていた木材の利用から始まり、燃焼後の灰の再利用、周囲の環境への配慮など様々な面での工夫、技術を見ることができました。

午後は、平成23年7月に運転を開始した新利南発電所(出力1,000kW)を見学しました。この発電所は、平出ダムからの流水を利用した小水力発電です。展望スペースとして整備された場所で概要説明を受けた後、発電施設を見学しました。この発電所で一般家庭約1,100軒分の電力がまかなえるのだそうです。2か所の見学終了後、利根沼田県民局で振り返りを行い、帰路につきました。



(新利南発電所地下建屋の様子)



(利根沼田県民局での振り返り)

今回の研修会で見学をしてきたどちらの発電所においても今ある資源を有効に使ってエネルギーを生み出すという考え方に基づいています。アドバイザーの方々も研修を通して学んだこととしてアンケートに以下のような感想を記してくださいました。

- 吾妻木質バイオマス発電所について、本県にもこういう設備が立地したという驚きを感じた。(他にもたくさんできれば良い):前橋市 松井さん
- 地球をこわしたのも人間だが、それを治すのも人間しかないし、人類の英知を結集することにより地球を守ることができるかと確信した。:安中市 磯貝さん
- 一寸と工夫することにより、この自然界ではまだ自然エネルギーの源となる材料が有ると実感した。:男性

以上、参加者21名の中からの抜粋です。

今回の研修を活かし、今後とも環境教育の牽引役、環境アドバイザーとしての更なる活躍をしていただきたいと思います。

群馬県環境アドバイザーの皆さんへ

想い、ご意見等をご投稿下さい

…グリーンニュース発刊50号記念に寄せて…

連絡協議会 代表 鈴木克彬

群馬県環境アドバイザー連絡協議会は、平成9年11月、群馬県に登録した環境アドバイザーが、自主的に会員相互の啓発、学習を目的として発足した組織です。

そして即、会員の皆さんに関心事のアンケートを行ったところ、『1位 ごみの減量化問題』、『2位 クリーンエネルギーの占有率アップ』、『3位 自然環境特に森林対策』、が上位を占めたことから、その三つの専門部会を立ち上げ、今日現在に至っています。

また会員間の相互交流、啓発の意味から“機関誌が必要”との事から『広報部会』が誕生し、“グリーンニュース”の創刊号が発行されました。そのグリーンニュースがアドバイザー皆様のご尽力のお蔭で、次回、平成24年2月号で区切りの50号を迎えます。

そこで環境アドバイザーの皆様にお願ひがあります。『是非、皆さんの環境問題や環境対策に対する想いやご意見、ご希望等を投稿して欲しい』ということです。記念号ですから、何ページになっても構わないと思っています。

例えば

◎ 連絡協議会に対して

- A もっとこういう企画をして欲しい(講演会・見学会・発表会・討論会等々)
- B こういうテーマの専門部会・話し合いの会をつくって欲しい。
- C その他希望事項、ご意見。
- D 私なら連絡協議会を、この様に運営したい。
- E 地域、市町村、環境団体との連携について。
- F その他、理論、環境問題に関する想い、夢等も語って下さい。

◎ もし、群馬県の環境政策等についてご要望があれば、お書き下さい。

- ★ 字数は500字以内 ★ 期日は平成24年1月20日(金)まで
- ★ 届け先メールでお願いします…(harakuni9292@yahoo.co.jp)
- ★ FAXの方は…027-344-6308(広報部会長 原田へ)

お便り、提案お待ちしております

ハッ場ダム周辺地域の国蝶オオムラサキの保護活動

- 1 保護活動の背景・・・ハッ場ダムが出来ると湖底に沈む、我が母校、長野原第一小学校・・・校庭にオオムラサキが舞った吾妻川沿いの自然豊かな学校も平成13年に水没地から代替地に校舎を移設した。
・・・オオムラサキを目標種として地域の貴重な生物が生育する場を確保することで地域の生物多様性が守られ、又自然保護を通して子供達が自然への畏怖、畏敬、命の尊さや感性・創造性等が育成される。また子供達が地域の生態系を守る担い手としても期待が持てる。
- 2 オオムラサキの生育条件と第一小の取り組み
ア、オオムラサキの幼虫が食餌にするニレ科のエノキかエゾエノキが必要・・・平成13年度学校東側斜面にエノキや柳の木を植樹・・・平成13年度校庭でオオムラサキの姿を児童が確認。
イ、成虫の糧となる樹液を出す木が必要・・・クヌギ、コナラ、ニレ、ヤナギ等の幹から染み出る樹液が成虫の主な食餌(果実や動物の排泄物等に飛来吸汁するが花にはほとんど訪れない)
平成15年から「どんぐりプロジェクト」が開始され、クヌギ、コナラ、どんぐりが植栽された。
ウ、占有飛翔空間のある緑濃い森(適度な湿度を保つ森)が必要・・・クヌギの枝先等でテリトリーを張り、侵入する他の個体や昆虫、野鳥でさえ追い出し、他の雄よりも早く雌を発見して交尾するための占有ゾーンが必要なオオムラサは今後も保護活動が必要である。
- 3 国蝶(準絶滅種)オオムラサキの生態、生活史、課題と展望等は次回に回します。

(自然環境部会 浦野 安孫)



群馬県出身、反原発の理学博士、高木仁三郎さんの紹介

東日本大震災発生後、起きてしまった福島県の前原事故。高木さんはその危険を予測し、特に地震時の対策の必要性を訴え、警鐘を鳴らしていた人物です。

高木 仁三郎(じんざぶろう)さんは、1938 年前橋市にて誕生。群馬大学附属中学校、前橋高等学校を経て東京大学理学部を卒業後、日本原子力事業(NAIG)に勤務した。東京大学原子核研究所、東京都立大学助教授などを経て、政府の原子力政策について自由な見地からの分析・提言を行う為、1975 年、原子力業界から独立したシンクタンク、原子力資料情報室を設立、代表を務めた。そこでは、原子力発電の持続不可能性、プルトニウムの危険性などについて、市民の視点、さらに環境を守るという視点から、情報を提供し、警告を発し続けた。

1997 年には、プルトニウム利用の危険性を世界に広く知らせた科学的・社会的貢献により、もう一つのノーベル賞と言われるライト・ライブリフッド賞を受賞。脱原子力運動を象徴する人物として、新聞、テレビ等での発言も多かった。

高木さんは、市民の立場から科学を考えることを訴え続け、2000 年永眠。その後、市民科学者を育成する高木学校によりその思いが受け継がれています。

私の原発についての考えは、原発事故前までは、原発は安全なものではないが、経済を支えるために、“クリーンエネルギー”として代替エネルギーが生産できるまでは必要なのは仕方のないもの、という認識でした。

今振り返ると、私は原発について理解していたのか。電力会社や国による“クリーンなエネルギー”という盛んな PR ばかりを受け入れ、高木さんの様なその反対の事実については自ら深く調べ理解はしていませんでした。物事にはいい面と悪い面、様々な事実があります。与えられる一つの方向からの情報と、そのもう一方にある事実を得ることに努め、自分なりの認識を持って判断しなくてはならないことを、こんなに大きな問題発生後に気が付き、反省しています。

これから、日本は原発についてどうするのでしょうか？賛成でも反対でも国民全員が意見を交わし、その判断に参加するべきだと思います。よく分からないと決断を任せてはいけません。私たち、子供たちの未来です。そして、電気料金だけ払っていけば使い放題の時代は終わりなのかもしれません。

参考

前橋市立図書館に、高木さんの本がたくさんあります。ぜひ、読んでみてください。

高木仁三郎の部屋 <http://cnic.jp/takagi/index.html>

高木学校 <http://takasas.main.jp/>

(広報部会 梅山さやか)

専門部会

今後注目される地中熱利用

震災の影響で今年の夏は各地で節電対策が行われたが、10月15日の上毛新聞によると、渋川市赤城町の寿司店では、今年の夏エアコンを一度も使わなかった。これは暑さを我慢したのではなく、店の裏にある井戸からビニールパイプで地下10mから22度の冷気を店内に送り込んだためだという。

最近注目されているのが地中熱利用だ。これは地下10m以上の深さでは温度が1年を通して14～18度で推移しているので、夏季には暑い外気を地中の温度で下げ、冬は逆に冷たい外気を地中の熱で温めるというもの。来春オープンする東京スカイツリーでも地中熱が空調に使われるようだ。

課題は掘削やヒートポンプなどの初期コストに費用がかかることだが、先の例のように、古くからある井戸を利用すれば掘削コストが削減できる。長野県ではこのような方法を病院の空調に利用している。

群馬県では、昨年より地中熱利用の実験用ハウスができたところですが、この10月に前橋市で地中熱利用の交流会があり各県の事例発表があった。参加者は行政や業者などの関係者がほとんどで、一般参加者が少なかったのは残念だが、今後、無尽蔵の地下資源（温度）といわれている地中熱に新たな可能性を持った。

(温暖化・エネルギー部会 小川 仁司)

第三回ごみ減量活動事例報告会を開催

ごみ部会では、去る11月26日(土)に、高崎市総合福祉センターにおいて、昨年に続いてごみ減量活動事例報告会を開催しました。

今回は、群馬県及び前橋市の県民、市民に向けたごみ減量化の取組みと食品スーパー、産業廃棄物事業者のリサイクルの取組みについて、4件の報告がありました。報告後、活発な質疑応答・意見交換が行われ、有意義な報告会となりました。

報告題目と報告していただいた自治体、企業の方は以下のとおりです。

- (1) 群馬県における循環型社会づくりに向けた取組み
群馬県環境森林部廃棄物・リサイクル課 齊藤 雅文 次長
- (2) 前橋市のごみ減量
前橋市環境部ごみ減量課 永井 尚弘 副参事
- (3) コープぐんまのごみ削減・リサイクルの取組み
生活協同組合コープぐんま総合企画室 針谷 勉 課長
- (4) 産業廃棄物リサイクル化
上毛資源株式会社 佐伯 一 代表取締役
(ごみ部会 中澤 章)

地域トピック

「うちエコ診断」受けてみませんか？

昨年に引き続き、今年度も10月20日から環境省の「うちエコ診断」事業が始まった。すでに夏から企業向けの「従業員うちエコ診断」は行われているが、一般家庭向けはこの秋からのスタート。10月30日の“たかさき地球市民の日”群馬県環境アドバイザー・高崎地区会ブースで第一号の診断となった。受診した方は、当初あまり期待していなかったそうだが、「事前調査票から単純に診断結果を示すものでなく、診断員のヒヤリングの結果を加味して診断に活かしている点は想像以上」との感想。

「うちエコ診断」とは、あなたの家庭からどれだけCO₂がでているか、どこから多く出ているかを専用ソフトを使って診断。事前アンケートに記入したものをもとに現状把握をしたのち、分野ごとに診断員が対策を提案する。今まで環境に関心のなかった人が受診すると、その多くは現状把握の段階で驚くが、そのぶんやりがいがある、ともいえるわけで、今まで無関心に暮らしていた人が取り組み始めることで大変効果がある。逆に、環境に意識の高い人は効果が少ないか、と言うとそうでもなく、自分では「やってみるつもり」でも診断をして数字を見ると、意外な結果が出ることもある。自分の生活スタイルが「つもりエコ」で終わっていないかどうか判断するいい機会だろう。

まずは申込書を群馬県地球温暖化防止活動推進センターへ提出、事前アンケートに記入してセンターへ提出。診断希望日の日程調整をして診断日を決める。診断後1～2ヶ月で事後アンケートが届くので、実行した項目をチェックして返送、という流れになっている。

診断は無料なので、まずはセンターへ問い合わせを。(027-237-1103)

(高崎地区 奈賀由香子)

各部会・活動の予定

(情報・話題・連絡・お知らせ etc.)

部会	内容	月/日	時間	(担当)問い合わせ先
自然環境	部会(前橋元気 21 3F) 第一回ぺぼ祭り	1月14日(土)	10:00-12:00	宮崎(080-5019-3820)
		2月18日(土)	10:00-16:00	々
広報	GN50号編集会議 (県庁16階県民サロン)	1月12日(木)	13:30-15:30	原田(027-344-6088)
ごみ	部会(群馬会館ホール) 「不法投棄防止 県民の集い」	1月24日(火)	13:00-15:30	須永(090-3498-1771)

次回(50号) 2012年3月発行予定 (原稿〆切 2月25日)